

平成29年度 学校自己評価システムシート (県立熊谷高等学校)

目指す学校像	これからの日本と世界に貢献できる人材を育成する、伝統を重んじ、活力に満ちた進学校
--------	--

重点目標	1 高い志を育成し、第一志望の進路を実現させるため、学力向上に向けた組織的な取組を実践する。 2 本校の特色や魅力を効果的に広報するとともに、県内小中学生と積極的な交流を図る。 3 伝統に培われた教育活動全般(学業・部活動・学校行事)を通じて、厚みある人間力をもったリーダーに育てる。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標				年 度 評 価 (月 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	誠	次年度への課題と改善策
1	○3年間を見通した進学指導の取組の成果が上がってきており、平成28年度は国公立大学合格者が117名(現役64名)。「骨太のリーダーを育成する高校生のための埼玉版リベラルアーツ事業」指定校として、多角的・総合的な指導を通じて更なる進学実績の向上が期待されている。 ○昨年度より進学型単位制を導入している。また、今年度より第2期スーパーサイエンスハイスクール(SSH)に指定され、より高度な教育活動を進められるよう取組を進める。	○指導力の向上と、生徒の主体的な学習を促す授業改善の推進	①単位制と学年制が混在しているが、年次団や教科担当者で連携を図り、きめ細かい学習ガイダンスを行うことで自主的に学ぶ姿勢を身に付けさせる。 ②生徒自らが考え、学ぶ授業を展開し、授業を更に活性化させる。 ③生徒の主体的な学習を促す授業改善のため、教員同士による授業公開の実施	①平日に学年+1時間以上学習する生徒が各学年全体の7割を超えたか(早朝、放課後含む)。 ②「生徒による授業アンケート」等で授業中に発言・質問をする生徒の割合が増えたか。 ③授業公開期間中、他の授業を見学した教員の割合			
		○高い志を育成し、第一志望を実現させる進路指導の充実	①1年次の講演会・集会、キャリア教育等を通じて高い志を育成し、3年間を見通した組織的な進路指導により高い進路希望を維持させる。 ②新たに正規指定されたSSH事業で全校生徒へ働きかけるとともに、骨太リーダー育成事業や国際交流事業等への参加を勧め、学校外の力も活用し生徒の意欲を高めていく。	①現役合格者数が国公立大学70名、うち難関国立大学10名を超えたか。 ②事業参加生徒の意識、意欲についてのアンケート項目の肯定的意見の割合が昨年より上昇したか。			
2	○ホームページにおいて「赤薨」、「匂熊」を中心に教育活動の様子を発信し、総アクセス件数が90,000件超であった。多様な情報ネットワークを利用し本校の良さを更に積極的にPRする。部活動については最新情報を随時掲載する必要がある。 ○保護者や小学校・中学校をはじめとする地域社会と連携し、本校の信頼を一層高めるとともに、本校で学びたいと強く思う中学生を増やす。	○積極的かつ効果的な広聴広報活動	①画像等の情報を迅速にHPに更新するとともに、部活動の更新を含め内容を充実をさらに図る。 ②携帯メール一斉送信を有効活用する。 ③マスコミ等へ本校の取組を積極的に情報提供する。	①ホームページの総アクセス件数が10万件を超えたか。 ②携帯メール一斉送信により必要な情報を随時送信したか。 ③マスコミ等で何件本校が取り上げられたか。			
		○地域社会との連携推進	①ボランティアを含め、地域行事への参加・協力や小中学校との連携をさらに推進する。 ②学校説明会及び中学生対象の部活動体験を複数回実施し、生徒同士の交流を図る。	①昨年以上に地域行事や小中学校行事への参加・協力ができたか。 ②学校説明会への参加者数が増えたか。部活動体験に多くの中学生が参加したか。			
3	○「質実剛健」「文武両道」「自由と自治」の校風が学校生活に活力を与え、人間力の形成と向上につながっている。生徒同士の学びあいの場、話し合いや発表の場、活躍の場をさらに増やし、リーダーとしてバランス感覚のある生徒の育成が期待されている。	○「学力」「体力」「良識」の調和のとれた、将来、日本の社会をリードする生徒の育成	①「学業・部活動・学校行事の鼎立」を踏まえ、学業を第一義に部活動や行事の更なる充実に取り組む。 ②社会で活躍する人材を招き、「真のリーダーとは何か」を考えさせる。 ③図書館開館時間の延長、放課後の教室開放等により「学ぶ集団づくり」を推進する。	①生徒が主体的に学校行事や生徒集会を運営したか。全国大会、関東大会に10部以上出場できたか。 ②事後の感想やアンケート結果等で、社会で貢献しようとする志を持つ生徒が増えたか。 ③放課後に図書館や教室で学習する生徒の数が増えたか。			

実施日	平成 年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等	